2006年度福岡女学院大学大学院人文科学研究科
比較文化専攻生　修士論文要旨

韓国社会における教育熱に関する考察

――中国、日本との比較を通じて――

金　　萍

1．序　論

教育熱の研究は，教育現状を理解するにあたって非常に重要であると思われる。教育熱の過熱さといえば，最初に思い浮かぶのは韓国であろう。韓国では子どもたちの受験を支援しようとする親たちの教育熱が異常とも言えるほど過熱している。とはいえ，教育熱現象は韓国社会特有の現象ではなく，日本と中国にも教育熱現象が存在するのである。さらに，韓国・中国・日本，この三カ国以外にもたくさんの国で現れている。教育熱は普遍的な存在である。ただ社会環境と社会構造によって，その強度と表出形態が違うように現われるだけだと思われる。韓国の教育熱実態を把握することによって，韓国を一つの実例として，他国の教育を理解，分析するのに手助けになると考えられる。そして，特徴ある韓国の教育熱を他国と比較することによって，韓国以外の国にはどんな教育熱現象が現れているのか，その国の親たち，教育学者たち，そして政府はそのような現象をどう認識してどんな反応を見せているのか，韓国と比べてどんな共通点と相違点があるのか，などを研究する必要性があると思われる。

本論の研究目的は，韓国の教育熱の形成背景を徹底的に究明して，韓国教育熱の特徴を整理，分析することによって，教育熱の実態を把握することにある。また，韓国，中国，日本，三国の教育事情を比較することによって，三国にはそれぞれどのような教育熱現象が存在するのか，三国の教育熱現象にはどんな共通点と相違点があるのかを把握することにある。

2．本論での「教育熱」の概念

「教育熱」は親に属したもので，子どもの教育を支援しようとする親の動機態勢であって，子どもたちにより良い学歴を持たせようとする親の行為として「社会競争」という条件の中で表出される。

3．韓国「教育熱」の形成背景

韓国の教育熱は文化・歴史的要因，経済的要因，社会的要因，心理的要因，教育構造的要因という複合的な作用で形成されたのである。

4．韓国「教育熱」の特徴的現象

「高費用・低効率」，「過熱課外教習」，「入試地獄」，「キロギアッパ」は非常に特徴的な教育熱現象である。

5．韓・中・日「教育熱」現象の比較

韓国，中国，日本，三国を全般的に見ると，まず，三国とも同じ儒教文化圏に属して，同じ儒教倫理を共有し，「孝行」，「年功序列」，「学問尊重」，「家族重視」などの儒教的価値体系を持っている。三国とも学校が序列化になっていて，「努力主義」という共通的な特徴を持っている。また，高学歴がより良い就職を可能にするという信念を共有しており，したがって，学校教育への期待が三国とも極めて強いのである。次に，三国における「出世観」に注目したい。家族や親族集団内部での競争は非難され抑圧されるが，身内外の個人，あるいは集団との競争はむしろ大いに賞賛されるのである。出世こそが，親に対する無限の恩の報いであり，親孝行を示す最良の方法であると信じていて，出世を果たすためには，優秀な学業成績を得て，一流大学に進学するのが最善な方法であると固く信じている。このような共通倫理を持っているため，三国の教育熱現象には共通点が非常に多い。しかし，異なる国家

体制と社会構造でまったく違う点も持っている。

6．今後の課題

教育熱という視点で，詳しい調査データに基づく本格的な国際比較研究が必要である。それによって，さらに効果的で実用的な教育熱緩和策を見出すことが望まれる。また，儒教文化圏と儒教文化圏外との比較も必要である。